

# 比残留県系2世を訪ねて

## 現地の叔母対面へ



南城市の宮里強さん(54)ら5月、フィリピン残留県系2世の親族と対面する。左から平良滋さん、宮里強さん、宮里弘さん。21日、南風原町与那覇

【南城】南城市の宮里強さん(54)らは5月、フィリピン残留県系2世の親族と対面するために現地を訪れる。残留日本人2世の国籍回復に取り組む日本財団とNPO法人フィリピン日系人リリーガルサポートセンターの協力で計画が進められている。宮里さんらは以前からフィリピンに親族がいたことを知っており、今回

サポートセンターに調査を依頼して実現することになった。日本側から現地を訪ねるのは初めての事例という。

宮里さんの祖父・源一さん(当時の佐敷村出身)は戦前の1929年、沖縄に家族を残して出稼ぎのため、ミンダナオ島のダバオに渡った。戸籍上は戦争に巻き込まれ、ミンダナオ島で45年に戦死したとされるが、現地の女性との間に4人の子どもをもうけていた。今回、唯一生存している源一さんの娘のコンチータ・ミヤザト・バシランさん(73)と宮里さんらが初対面する。

同じく孫の平良滋さん(67)は「祖母のタマツおばあは戦後、子ども4人を女

手一つで育てるのに苦労した。祖父に見捨てられたという思いも持っていたと聞いている」と複雑な胸の内も明かす。

宮里さんは「叔母に当たる人が生存しているとは思わなかった。会いたいと思うのは自然な感情。祖父に線香をあげたいと、父たちも思っていたはず。私たちがそれをやってあげることが親孝行になるはずだ」と思いを語る。

宮里さんら4人は5月15日に現地へ渡り、コンチータさんら親族と再会する。現地にある法人のお墓で慰霊祭なども行う予定だ。

効きめで評判  
**アトピー度炎**  
漢方薬療法  
大天堂薬局  
国際通り三越前  
☎863-1677